



# 東風

〇月〇日

『明るく伸びる子』

〇考える子 〇助け合う子 〇やりぬく子  
〇じょうぶな子

【めざす子ども像】

豊かな心で自ら学びたくましく生き抜く子

令和元年9月29日発行 第7号

9月

## 子どもの将来を見通し、今を大切に

岩内東小学校長 齊藤 信之

一雨ごとに季節が急ぎ足で進んでいるのを感じるこの頃です。ジャンパーに手袋と登校する子どもたちの装いも、季節の歩幅に合わせて変わっています。

本校では、お昼休みに子どもたちが分担して教室や廊下を掃除しています。私が担当している体育館は、2年生と5年生が一緒に掃除を行っています。異学年の子たちが、教えてあげたり手伝ってもらったりする光景は、ほほえましいだけでなく、とても価値あることだと思います。残念なことは、掃除を一緒にするだけではお互いの名前も知らないままに過ぎているということです。そこで、掃除の反省の最後には、一人一人の名前を確かめる場を作っています。親しく名前を呼び合えるようになってから、しだいに心の距離も近付き始めるのではないでしょうか。

下級生は、上級生をよきモデルとして学び、下級生にやさしさと親しみをもって伝えることで上級生は育ちます。掃除以外にも、6年生は朝の1年生教室を訪れることを4月から続けています。目に見える成果として、すぐには現れないかもしれませんが、目的をしっかりと続けることが、子どもたちの意識を変え、心の育ちに結びついていくものと信じています。

子育てについて多くの著書を出されている辰巳渚さんは、今も昔も変わらぬ子育ての使命は、「子どもを一人前に育てあげること」と言っています。一人前というのは、①自分自身の身の回りのことができる ②働いて生きていくことができる ③人とよい関係を築ける という三つのことができることだそうです。

そして、辰巳さんの言う「一人前にするための三つのこと」というのは、今、学校に求められている「自分のよさや可能性に気づき、他者と協働しながら豊かな人生を切り拓き、社会の担い手となることができるようにする」ということと重なります。

子どもたちの将来を見通し、自分の人生を自分の力で切り拓き社会の担い手として活躍していけるよう、今まで以上にご家庭と学校との関係性を強め、子育ての協働を拡げていこうではありませんか。将来のために今すべきことを一緒に考えていきたいと思えます。

学校は、一年の後半戦に入りました。上半期の取組を振り返り、次へつなげるべく行った「保護者アンケート」は76%の回答をいただきました。お寄せいただいた貴重なご意見やご要望を真摯に受け止め、この先へと活かしていきます。また、学校を応援してくださる言葉には、温かく背中を押していただいたと感謝しております。これからも双方向の関係性を大切に「見える」「わかる」「伝わる」学校づくりを進めて参ります。お忙しい中、ご協力いただきましたことに改めて感謝申し上げます。

日頃より、地域をあげて子どもたちの安全を見守っていただいていることに感謝いたします。このところ、北海道では交通死亡事故が異常なペースで多発しています。日没が早くなるこれからの時季、夕暮れ時には特に注意が必要です。子どもたちをはじめ、だれもが被害者にも加害者にもなることがないように交通安全への意識をいっそう高め、実践していきましょう。